

あなたの情報を守るために

最新情報セキュリティ



## インターネットセキュリティ

インターネットセキュリティは  
自己責任で！

だれかが対策を行なってくれている？

そんなことはありません

自分の情報、自分のネットワークは

自分でハンドルをにぎりましょう

被害者にも、加害者にもならないために

## セキュリティ上の脅威 個人

- フィッシングによる個人情報の搾取
- ネット上の誹謗・中傷・デマの拡散
- メール、SMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求
- クレジットカード情報の不正利用
- 偽警告によるインターネット詐欺
- 不正アプリによるスマートフォン利用者への被害
- インターネット上のサービスからの個人情報の窃取
- インターネットバンキングの不正利用
- インタネット上のサービスへの不正ログイン



# 情報セキュリティ対策の基本事項

攻撃の糸口	情報セキュリティ対策の基本	目的
ソフトウェアの脆弱性	ソフトウェアの更新	脆弱性を解消し攻撃によるリスクを低減する
ウイルス感染	セキュリティソフトウェアの利用・更新	攻撃をブロックする
パスワード窃取	パスワードの管理・認証の強化	パスワード窃取によるリスクを低減
設定不備	設定の見直し	誤った設定を攻撃に利用されないようにする
誘導（罠にはめる）	脅威・手口を知る	手口から重要視するべき対策を理解する

# インターネットセキュリティ

## フィッシングによる個人情報等の詐取

フィッシング詐欺は、公的機関や金融機関、ショッピングサイト、宅配業者等の有名企業を騙るメールやSMS（ショートメッセージサービス）を送信し、正規のウェブサイトを模倣したフィッシングサイト（偽のウェブサイト、全く関係のないサイトに行く場合もある）へ誘導することで個人情報（名前、住所、クレジットカード番号等）を搾取する手口。

### 例

「設定が完了していません。下記URLから設定を完了してください」

「あなたの情報が攻撃されています。パスワードを今すぐ変更してください」

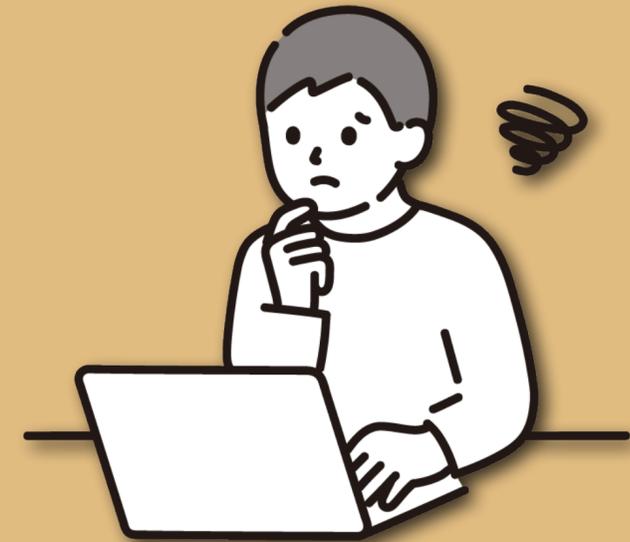
「〇〇宅配です。不在通知を確認してください。URL <http://~>」

「おめでとうございます。〇〇フェアのおまかせセットが当選しました」

### 被害

不正ログイン、不正送金、物品の購入・転売による金銭を得る

また、自分とは関係ない人間への誹謗・中傷などを行なった加害者にさせられる



# インターネットセキュリティ

## フィッシング詐欺被害の予防策



- SMSやメールで受信した URL や SNS の投稿ないのURLを安易にクリックしない
  - よく見るサイトはブックマークにあらかじめ登録しておく
  - 公式アプリを利用する
- 多要素認証の設定を有効にする
  - Authenticatorなどの認証アプリを使う
  - 携帯電話での二段階認証をセットしておく
- 迷惑メールフィルターを利用する
  - 覚えのないメールや違うメールアドレスにきているメールは迷惑フィルターをセットしておく
  - 疑わしいメールはさらにブロックする
  - 同じような内容の悪質なメールが連続で来る場合はプロバイダの方で止めてもらう（他の人のためにもなる）
- 被害の早期感知のため、ネットバンキングやクレジットカード、決済システムの残高などを把握しておく
- 信頼できる期間に相談
  - 警察、国民生活センター、消費者センター等
- 被害を受けた場合は必ずパスワードを変更する



# インターネットセキュリティ

## ネット上の誹謗・中傷・デマ

SNSの普及とともに匿名での投稿を利用できるサービスで特定に個人あるいは企業への誹謗・中傷の行為が問題になっている  
この行為により精神的苦痛を受ける、風評被害をうけて信頼や信用を損なうまたは経済的な損失を被ることもある

### <攻撃者>

- ・ 情報モラル、情報リテラシーが低い人
- ・ 元から悪意を持っている人

### <被害者>

- ・ 個人
- ・ 組織（企業、公共機関、教育機関等）

### <影響>

匿名での広域な情報発信が容易に行うことができるようになっている（匿名⇒突き止意図的に他人への誹謗・中傷・デマ・脅迫・犯罪予告を書き込む事件が確認されてまた、デマであっても拡散できるため最初の書き込みを削除しても影響は出続ける  
攻撃の対象が個人の場合は精神的苦痛を受ける（人格否定等によるうつ・パニック発作などの病気の発症）



また、公衆衛生及びリテラシーの低さから、及ぼす影響を予測することができず  
誹謗・中傷・デマの発信が犯罪であること。情報の真意を確かめず拡散した人も加害者になりうることなどが  
認識できていない（社会的責任を問われ、民事だけでなく、刑事事件にもなる）

## ネット上の誹謗・中傷・デマの予防策

- 情報モラルやリテラシーの向上、法令遵守の意識の向上
- 誹謗、中傷や公序良俗に反する投稿をしない
- 投稿前に内容を確認する
- 匿名性がある場合でも発言には責任を持つ
- 被害者はプロバイダー等に発信者情報の開示を請求できる。

## 被害を受けた後の適切な対応

- 一人で考え込まず、信頼できる周囲の人や公的相談機関へ相談する。脅迫や名誉毀損に該当する誹謗・中傷等犯罪と思われる投稿は警察へ被害届を提出し、必要に応じて弁護士にも相談する。
- ウェブサイトの管理者やプロバイダーに書き込みの削除依頼をする。
- 冷静な対応が求められるが、自信がない時は周囲に助けを求める（これから生きていくための当然の権利として間違いを正すことを目標に